

黙示録12章：女と竜

1-2節：「女」はだれか？

創世記 37 章9節：「ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、『また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです。』と言った。」

→ イスラエル民族のことを表している。

「産みの苦しみの痛みのために、叫び声をあげた」： 主がお生まれになった時、ユダヤ人はローマの圧制の中にいた。

3節：「竜」はだれか？

9 節に、「この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇」

→ 悪魔のこと

聖書では「竜」は、実在する動物として描かれている。

創世記3章1節の「蛇」は、まだ地を這っていなかった(3:14)。

ヨブ記 41 章に「レビヤタン」が出てくる。竜の描写そっくりである。

「その日、主は、鋭い大きな強い剣で、逃げ惑う蛇レビヤタン、曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し、海にいる竜を殺される。(イザヤ 27:1)」

「七つの頭と十本の角」： 13 章1節に「獣」がそうであると書いてある。

→ 反キリストの背後、諸国の背後にあるものは悪魔。

4-6節： イエス・キリストの生涯

「天の星の三分の一」： 「星」は天使のこと。サタンが神に反逆した時、天使の三分の一も率いられたと考えられる。これが悪霊であると考えられる。

「また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。(ユダ 6)」

暗闇に閉じ込められている悪霊もいるが、地上に徘徊している悪霊もいる。

「悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。(ルカ 8:31)」

→ イエス様の時代に悪霊の働きが多かったのは、サタンが三分の一の天使を地上に投げたため。

「その子を食い尽くすためであった」： ヘロデ王は、幼子イエスを殺すためにベツレヘムの二歳以下の男の子を虐殺した(マタイ 2:16)。

→ キリストに反対する諸国の働きの背後には、悪魔がいる。

「鉄の杖をもって牧する」： 「あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。(詩篇 2:9)」今は、悪い王であってもそのままにされているが、神の国ではすぐに罰せられる。

「神のみもと、その御座に引き上げられた」： イエス様の昇天(使徒 1:9)

「女は荒野に逃げた」： 13 節以降にさらに詳しく説明がある。

「1260 日」： イスラエルにとっての大患難の始まり。 → マタイ 24:15-22

「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降り

てはいけません。畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。もし、その日数が少なくされなかつたら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。」

「ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。(エレミヤ 30:7)」

7-9節：天の戦い

「ミカエル」： イスラエルのために戦う天使長(ダニエル 10:21)

→ 今、イスラエルが

cf: もう一人、聖書に出てくる天使長はガブリエル。メシヤの来臨を告げる天使(ダニエル9、ルカ1)

「天にはもはや彼らのいる場所がなくなった」： 悪魔や悪霊は、天地が造られる前に神の御座の周りからは追い出されたが、まだ神のところに近づくことができた。ヨブ1章 6-12 節

「ある日、神の子らが主の前に来て立ったとき、サタンも来てその中にいた。主はサタンに仰せられた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えて言った。「地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。」主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」サタンは主に答えて言った。「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。あなたは彼と、その家とそのすべての持ち物との回りに、垣を巡らしたではありませんか。あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地にふえ広がっています。しかし、あなたの手を伸べ、彼のすべての持ち物を打ってください。彼はきっと、あなたに向かってのろうに違いありません。」主はサタンに仰せられた。「では、彼のすべての持ち物をおまえの手に任せよう。ただ彼の身に手を伸ばしてはならない。」そこで、サタンは主の前から出て行った。」

→ 悪魔は、神の民を告発するのがその特徴。

「悪魔」： ギリシヤ語で「中傷者」の意味。

「サタン」： ヘブル語で「敵対者」

→ 悪魔はまず、1)「嘘」をつき(ヨハネ 8:44) 2)神の計画や働きに敵対する

なぜユダヤ人はこれまで迫害されてきたか？ 答え：神の選びの民だから(出エジプト 19:5-6)

なぜキリスト者は迫害されるのか？ 答え：キリストに選ばれた者だから(ヨハネ 15:16)

「古い蛇」： エバをそそのかした蛇のこと

「地上に投げ落とされ」： 天にいくことさえできなくなった。彼らの働きは地上のみとなった。

10-12節：天における賛美

「権威が現れた」： 11 章 15 節と同じ。

「兄弟たちの告発者」： どのように告発するのだろうか？

「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護して下さる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。(1ヨハネ 2:1)」

→ 私たちが罪を犯してしまったときに、悪魔は、「お前はもうクリスチャンとしての資格はない。イエスに従っていく必要はない。」と告発する。

「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。(ローマ 8:33-34)」

聖霊の与える罪の自覚(ヨハネ 16:8-11)と、サタンの与える罪の責めの違い

→ 罪を犯した後に、キリストの十字架のもとに走らせるか、それともキリストから離れさせるか。

サタンに打ち勝つ方法

1)「小羊の血」 2)「自分たちのあかし」

「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。(マタイ 10:32-33)」

→ 自分に与えられた信仰を言い表すことはとても大事。

「自分の時の近いことを知って」： 自分の終わりが近いから、最後のあがきをする。

13-17節： 女を追いかける竜

「鷲の翼」： イスラエルを荒野で守る神の御手(出エジプト 19:4)

「一時と二時と半時」： 1260 日の間、ダニエル第 70 週目の後半部分

「大水」： 聖書では軍隊のことを象徴している(例：エレミヤ 46:7-10)

「地は女を助け」： ここの地形が、イスラエルを軍隊から守った。ダニエル 11 章 41 節

「彼は美しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。(ダニエル 11:41)」

「子羊を、この国の支配者に送れ。セラから荒野を経てシオンの娘の山に。モアブの娘たちはアルノンの渡し場で、逃げ惑う鳥、投げ出された巣のようになる。助言を与え、事を決めよ。昼のさなかにも、あなたの影を夜のようにせよ。散らされた者をかくまい、のがれて来る者を渡すな。あなたの中に、モアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者からのがれて来る者の隠れ家となれ。しいたげる者が死に、破壊も終わり、踏みつける者が地から消えうせるとき、一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行なう者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。(イザヤ 16:1-5)」

1節：「セラ」ボツラ(イザヤ 63:1)のこと。

ボツラ： かつてエドムの首都。難攻不落の要塞。今のヨルダンのペトラ。

3節：「散らされた者、のがれて来る者」ユダヤ人のこと

4節：「虐げる者、踏みつける者」反キリストのこと。その背後に悪魔がいる。

5節：「一つの王座」キリストのこと。神の国

「戦おうとして」： 13 章に出てくる

「海辺」：「海」は諸国を表す